

尚美学園大学尚友会第11回定期総会報告

会場：株式会社ライセンスアカデミー東京本社会議室

全国の卒業生の皆さん、こんにちは。6月28日(土)に開催された「2025年度第11回定期総会」は盛会裡に終了しましたのでご報告致します。

当日は、ご多用の中、大学側より永山賀久学長様、オンラインで、芸術情報学部長 恩田憲一教授様、総合政策学部長 金原由紀子教授様、スポーツマネジメント学部長 小泉昌幸教授様、情報表現学科長 音楽表現学科長 後藤文夫教授様、舞台表現学科長 山崎岩男教授様、教職・資格課程センター長 大野好司教授様をはじめ多くの大学関係者のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。



—会長より開会の挨拶—

皆さん、こんにちは。開会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

◆尚美学園大学尚友会の皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしのことと拝察いたします。第11回尚美学園大学尚友会定期総会にご出席賜り、厚く御礼申し上げます。また、日頃より同窓会の活動にご理解ご尽力いただき、重ねて御礼申し上げる次第でございます。

本日は、ご多用の中、名誉会長である永山賀久学長・尚美学園理事長にご臨席を賜りました。また、大学側よりオンラインで芸術情報学部長 恩田憲一（おんだ のりかず）教授様、総合政策学部長 金原由紀子（かねはら ゆきこ）教授様をはじめ多くの大学関係者のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。



◆世の中を見渡せば、分断・対立が一層深刻化し、混迷の時代を迎えています。なぜ、このような状況になっているのか。その根底には「格差の問題」に対する、人々の怒り、不安があるように思えてなりません。さらにわが国は克服すべき二つの課題、すなわち「少子高齢化・人口減少」と「資源を持たない島国」に直面しています。この課題は、私たちの母校である尚美学園大学という私立学校を取り巻く情勢は非常に厳しいということにも直結します。大学側は、急速な少子化の影響が大きい中、様々な経営判断をして対応している状況かと思えます。われわれ同窓会組織として尚友会は何をすべきなのか？

◆会員一人ひとりがこれまで以上に同窓会活動としての尚友会に関心を持ち、若い卒業生をはじめ各世代の方々に主体的・積極的に参加していただける「会員ニーズと時代にマッチした魅力的なネットワーク」を展開して参りたいと思っております。母校とこの苦難の時代を一緒に乗り越えていきたいと思っています。



◆さて、令和6年度の活動を振り返りますと、前柴崎幹事長を中心に、尚友会事務局である学生課と連携を密にして、尚美祭への出店、「尚友会コンサート」の実施や、学生支援事業では、カフェテリア（ナイス株）より、カレーサービスランチの提供を後援会とともに行いました。

また、キャリアセンターとの連携事業で就活イベント、さらに、全国支部活動についてですが、埼玉総支部の設立により、関東における中

心的な役割を担う同窓会活動を支援し、今後も支部活性化のために支部長と連携を密にして、卒業生の絆を深めていきたいと思います。母校支援として、尚美学園大学の発展を願い、大学を支えると同時に、卒業生にいろいろな活動を提供しつつ、建学の精神である「智と愛」のもと、「社会に役立つ人の育成」を実際の社会において行ってきました。この長い、心温まる歴史を持つ同窓会は、今もいろいろな意味で成長を続けています。今回のオンライン総会の例にみられるように、新たな方法でネットワーク構築などを含め、さらに活動の範囲を広め、深めていきたいと思っています。

◆最後になりますが、これからも全国の卒業生の皆様と一層連携を密にして、尚美学園大学の発展と、尚友会の活性化に努めていく所存であります。全国の会員の皆様はじめ関係各位の皆様方には、今後とも引き続き御支援、ご協力をお願い申し上げまして開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

○名誉会長である永山学長よりご挨拶をいただく。

- ・2025年度の募集状況について
- ・2040年問題について
- ・大学のスクールカラーとしての「尚美オレンジ」を認定
- ・校章の位置付け
- ・2026年度の新学科「芸術表現学科」が文部科学省より認可されたこと



○富山副会長の司会進行で議案審議に入る。

○第1号議案 2024年度事業報告案について説明する。

会長より、議案書4ページにあります2024年度事業報告にありますように卒業生並びに大学関係者からのご支援ご協力を賜り実施致しました。概況として説明させていただいた。主な事業のうち、第10回定期総会についてはオンライン開催と致しました。



○第2号議案 2024決算報告案、貸借対照表及び監査報告では、科目別に大項目のみ読み上げ、監査報告を行った。はじめに会計担当高井理事より、科目別に大項目のみ読み上げる。

- ・収入の部、会費 15,820,000 円、維持会費 136,953 円、前年度繰越金 8,540,643 円
収入の部総計：24,604,496 円
- ・支出の部、本部費 3,598,117 円、事業費 6,823,586 円、助成費 5,180,000 円、周年記念事業費 1,000,000 円
- ・支出の部総計 18,872,103 円

収支の部：総計 5,732,393 円が次年度繰越金となります。

- ・次に貸借対照表であります。資産の部：合計 36,736,346 円
- 次に監査報告を高麗監事・井戸監事が読み上げる。



○第3号議案 2025年度事業計画案と第4号議案予算案を合わせて説明する。

・会長より、議案書8ページにあるように2025年度は、尚美学創立100周年を見据え、加速していきたくております。社会様式の大きな変化に加え、国家間の対立による資源高騰が進み、私たちにとっては、先がなかなか見通せない状況であります。

そのような状況の中、100周年記念事業の一環として、大学側へ2025年度分として、環境整備として15,600,000円を拠出します。

また、「尚友会コンサート」は引き続き第3回として開催します。

社会環境のこの大きな変動期に、同窓会を活性化させる人、支部をはじめ卒業生を支えることにより、尚友会は社会に貢献していきます。

・今後の状況の推移を見ながら、オンライン会議システムの活用なども含めて、可能な限り会員に対する支援を図るよう努めてまいりたいと考えております。

・尚友会事業では、第11回総会をオンライン形式で行うなどお示した10の事業を展開します。特に、8番目のキャリアセンターとの連携による学生募集や就職支援に関わる連携事業、さらには国際交流室と連携を取り海外留学生等とのネットワークの構築を進めていきます、最後の専門学校同窓会組織と合同で進める「尚美学園創立100周年記念大祝賀会」(2026年11月22日開催予定)に向けての準備を強めていきます。

・助成事業では、昨年度は学友会活動への助成をはじめ、助成交付金の基準を見直し、イベント助成を積極的に活用していただけるように広く周知してまいりました。結果として多くのイベントへの助成をさせていただきましたが、中には領収書等の不備により助成できなかったイベントもありました。今後は、申請責任者は申請書類の不備がないように努めていただきたい。

・また、適宜支部長と連絡を密に取り合いながら、本部から支部活性化に積極的に関わっていきたくて考えている。特に、2026年4月に開設予定の芸術表現学科の入学生確保について各支部とも連携を取りながら、学生募集支援事業の活用など具体的に打ち手を考えていきたくて思います。全国の尚友会の皆様の熱いご支援をお願い申し上げます。

・尚、1点ご連絡となりますが、次年度すなわち 2026年度の総会については、尚美学園100周年記念事業の一環として、大学側で企画されるホームカミングデーに合わせて総会日を決定しますので、年度が変わって事業計画や予算案の承認がこの6月より遅くなりますが、会長専権事項として動いていきますことをご了承ください。

・2025年度予算案では、会計担当高井理事より、科目別に大項目のみ読み上げた。

会員の皆様からも今後の同窓会活動の進め方について、ご意見・ご提案があれば遠慮なく賜わりたいと存じます。

○第5号議案 その他について

・会長より、柴崎幹事長が事務局長を退いたため、中村事務局長が幹事長に就任。それに伴い、柴崎幹前事長におかれては、会則第8条の2により、役員会で顧問として推挙されたので、総会で承認された。

○司会の富山副会長より、以下の確認を行った。

議題について、慎重かつスムーズなご審議をいただき、すべて可決承認され、報告事項も含めて、滞りなく無事に終了しましたことを、ご報告します。

ー終わりの挨拶ー

本日は、昨年に引き続きオンラインによる総会を実施しました。全国各地から参加いただき、貴重なご意見やご要望を頂戴致しました。

(※尚友会における企画・運営に関しまして、ご意見・ご要望等がございましたら、尚友会役員や事務局までお寄せください。皆様からの言葉を参考に、より良い同窓会組織を作り上げたい

と思います。)

◆同窓会の重要な役割が、会員間の親睦と母校支援にあることは申すまでもありません。その、会員間の親睦や母校支援をどのような意味と方向づけをもって行うか、ということ。そうした問題意識をもつことは、とりわけ大学同窓会には求められているように思います。

ただ楽しかっただけではいけないのに、あの日のあの顔と顔を合わすだけで懐かしさがこみあげてきて、なぜか心からの喜びに包まれます。とりわけ青春へのノスタルジアは今を忘れさせ、過去を喜びとしてしばしば現出させます。私たちが進んであの日に誘われるのもそのためでしょう。同窓会という装置は、複製ながらも、あの日、あの顔、あの場所を三点セットとして整え、過去を単なる流れる時としてではなく、特別な感情のしみ込んだ時を生き生きと甦らせ、言葉には言い尽くせない雰囲気や気分までも再生してくれます。

◆来年度、いよいよ学校法人尚美学園は創立 100 周年を迎えます。2026 年 11 月 22 日には池袋のメトロポリタンホテルを会場に大祝賀会を開催する予定です。同窓会で語られるそれぞれの人生は、私たちに、自分や自分の人生物語の似姿であることを確認させます。同窓会とは、今までの自分を思い起こして自分を知り、これからの自分を考え、自分とはなにかを確認し再構築する場でもあるのです。同窓会は、かつての良き時代を思い起こし感慨に耽るだけでなく、それ以上の効用を私たちにもたらしてくれます。社会を動かすダイナミズムとは違ったところに形成されている同窓会、自分とは異なる経験や情報をもった同窓が年代を超えて集う同窓会、そうした同窓会のもつゆるやかさに、私たちは自分を振り返り、本当の自分とはなにか、社会とはなにかに気づき、自分の心の奥底に眠っている希望を見つけることができるのです。必ずしも幸せとは言えない現在の社会全体の閉塞感の続く中で、私たちは未来に向かってどう動くのか、そのヒントを同窓会は差し出してくれます。同窓会のもつゆるやかな関係に秘められた繋がりや絆は、私たちに新たな生きる希望を与えてくれるのです。自分と違う生活環境の中にある同窓とゆるやかに繋がる同窓会、そこに私たちは逆境の中でどう生きるかの示唆を得ることができるはずです。尚美学園 100 周年を多く同窓生が集える場にしていけます。心からお待ちしておりますので予定の都合をつけておいてください。

◆同窓会は、同窓の皆さま方の親睦を図るとともに、活動を通して母校の発展に資することが目的でございます。今一度、その原点に戻り、親睦活動を活性化しなければなりません。そのために、大学側と連携しながら、「ホームカミングデー」などのイベント開催や、支部総会、懇親会、さらにはクラブやゼミの同窓会、同期会などの同窓生が集まる活動のバックアップを行ってまいります。何卒、本会の目的ならびに制度をご理解いただき、大いに同窓会行事へのご参加、ならびに制度をご活用いただきますれば、幸いに存じます。

◆最後になりましたが、会員の皆様におかれましては、体調管理に十分ご留意いただき、今後ともお元気で、ますますご活躍されますことをお祈り申し上げまして、閉会のあいさつといたします。本日は誠にありがとうございます。

○以上を持ちまして、第 11 回定期総会を終了します。

○総会終了後に、功労者表彰として、幹事長を退任された柴崎義之前幹事長、事務局の仲秀樹前幹事、西村利子前幹事に感謝状が贈呈されました。

